

所 報

第 4 2 号 2 0 0 0 年 1 1 月 発行
 発 行 人 津嘉山 朝 祥
 発 行 所 沖縄県立教育センター
 〒904-2174 沖縄県沖縄市字与儀587番地
 電 話 0 9 8 - 9 3 3 - 7 5 5 5
 F A X 0 9 8 - 9 3 3 - 3 2 3 3

大好評の「体験学習教室」

今年の「体験学習教室」は、5月にスタートした 第1回たのしい自然教室」を皮切りに、「バイオテクノロジー体験教室、画像処理入門、おもしろ科学教室、親子星空教室、親子パソコン教室、親子リトミック教室、おもしろ学習教室」が夏休み期間中に実施されました。

参加者約1000名の殆どが、親子で一緒に作ったりいろいろな体験ができて楽しかったと感想を述べています。中・高校生からは、今年の応用編や期間延長の要望もありました。

今後も、参加者の声を生かし、多くの幼児児童生徒が満足する「体験学習教室」を提供したいと思えます。

写真N0.1

大気圧のおもしろ実験

写真N0.2

写真N0.3

11月～来年2月までの予定（10月末現在）

たのしい自然教室	11月25日（土） 12月23日（土） 13年1月27日（土） 2月24日（土）
親子星空教室 ③	12月2日（土）19:00～
親子星空教室 ④	12月3日（日）19:00～
南風原町立 南星中学校体験学習 （1学年）	平成13年2月7日（水） ・マルチメディア体験学習 ・インターネット体験学習 ・産業技術教育センター見学 ・おもしろ科学教室

上記の他、学校からの要望に応じて「おもしろ科学教室」の出前を予定しています。

対象：北谷町立北谷第二小学校2学年とその保護者

日時：11月18日（土）午後2時～4時

目 次

夏休み「親子体験学習教室」より 研究室だより（短期研修講座） 【理科研修課】		— 1 —
『短研2000！ 実りの多かった短期研修講座』		— 2 —
○産業教育課：分析システム：「分析機器活用講座」		— 3 —
○特殊教育課：「知的・情緒・学習障害教育研修講座」		
○情報処理教育課：「小学校パソコン教育利用講座」		
○教科経営課：適応指導教室「みんなと一緒にたのしいな～！！」		— 4 —
○教科経営課：「へき地・小規模・複式教育の課題解決のために」		— 5 —
○特殊教育課：LD（学習障害）と特殊教育		— 6 —
研修を終えて		
【教科研修課・情報処理教育課】		— 7 —
— 県立那覇西高等学校教諭 島元 要 —		
— 西原町立西原小学校教諭 儀間 栄子 —		
平成12年度前期長期研修員「研修テーマ」一覧		— 8 —

短研 2000!

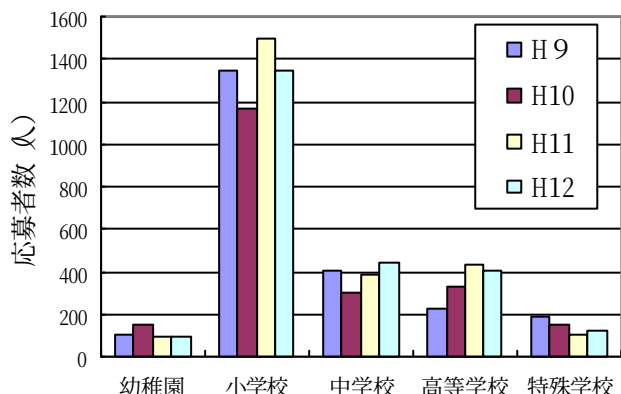
実りの多かった短期研修講座

理科研修課 奥 間 有（地学研究室研究主事）

夏休み期間に短期研修講座を実施しました。今年度は小学校、中学校、県立学校併せて67講座を開設しました。

また、講座の内容も衛星通信の活用、講義、事例発表、実習、協議などを行い、いろいろな方法で、参加者のニーズに応えるようにしました。

今年は、小学校が1342人、中学校442人、高校408人、特殊教育諸学校126人、幼稚園で99人の応募がありました。



短期研修講座の応募者の推移

各講座とも、教科・領域の指導法の研修や今日的教育課題の解決をめざし、日頃の授業実践に役に立つ内容を取り入れて実施しました。

特に、人気の高かった講座は、「総合的な学習講座」「小学校図画工作実技講座」「小学校パソコン教育利用講座」「小学校英語講座」でした。

講座に参加した多くの皆さんが満足していました。

次年度は、新たに「自主講座」としての、課題研修講座と基礎講座を今までの講座に加えていく予定です。学校教育を支援するために、教育センターの施設や設備を活用しながら、指導のアイデアや参考資料を提供できるような短期研修講座をめざします。

次年度も多くの皆さんの応募をお願いします。

今年の短期研修講座の中から・・・

－中・高国語教育研修講座－

今回の研修は「1新指導要領で求められている国語科教育の基本方向、2『言語活動例』を取り入れた授業実践例、3実践事例発表」の講義と報告を行いました。教科審の中間まとめから国語科の現状を、答申から改善の基本方針を、中・高に共通した内容で講義を、また前年度の研修員の実践事例発表を行い、質疑応答で内容の深化を図りました。

●●●受講者の感想●●●

- ・歴史的な転換期が、国語科に訪れているという認識を私たちが持たなくて誰が持つのかという思いがしました。
- ・現場では得られない刺激があります。講義の内容も移り変わる現状に即したもので良かったと思います。

－小・中道徳研修講座－

今回、初めて模擬授業を研修内容に取り入れてみました。40名余の受講者を前に、前期長期研修員の金城実幸先生が自作資料を用いてモラルジレンマ（価値葛藤）による授業を行い、活発な話し合いが展開されました。

受講者は子どもの立場になって授業に参加することができ、今後の子どもの視点からの授業づくりに大いに参考になったようです。

●●●受講者の感想●●●

- ・モラルジレンマの授業、大変参考になりました。私もこの資料を使って授業したいと思います。
- ・初めてモラルジレンマというものに出会いました。教師中心でマンネリ化していた道徳の授業を改善するうえでとても有効だと思います。

ー分析機器の活用講座ー

企業及びセンターの主事を講師として、高速液体クロマトグラフ、GCMS及び原子吸光光度計を活用した分析講座を行いました。

内容は、「泡盛古酒の成分分析」で機器の原理も含めながら、実験操作を中心に講座を展開しました。

「何が古酒をまろやかにしているのか？」を調べる目的で下記の項目について、実験を行いました。

1. 泡盛のアミノ酸分析
2. 泡盛の糖分析
3. 泡盛の揮発成分分析
4. 泡盛の無機成分分析

結果については予想外のデータもあり、充実した研修として評価していただきました。

受講者の感想

- ・興味深い研修で教材に応用できそうなものもあった。欲を言えばもっと機器を操作する時間がほしかった。
- ・農業・工業・水産の先生方が一堂に介して研修を行うことだけでも意義があると思う。

写真4

ー知的・情緒・学習障害教育研修講座ー

三日間の研修でしたが、台風のため、初日は午前の研修が休講になり、午後中部以南を対象にした講座になりました。52名の定員でしたが希望者80名全員受け入れました。

講座内容は、「発達障害（学習障害児）の理解」「就学指導と教育相談」「実態把握の方法と心理検査」「領域・教科を合わせた指導と総合的な学習の時間」「個別の指導計画」「自閉症児の指導」「問題

行動への対処」でした。方法は、講義、演習、事例発表と多岐にわたりました。窮屈な会場でしたが熱心に聞き入っていました。

受講者の感想

- ・学習障害（LD）についての講義が台風で休講になったのは、残念です。
- ・はじめての特殊の短期研修講座に参加したがていねいに話しを進めてくださったので理解しやすかった。
- ・医師による専門的な治療の事例は大変良かったです。

ー小学校パソコン教育利用講座ー

初心者を対象にした講座で、情報教育についての基礎的な内容、授業でコンピュータを活用するための基本操作やソフトの活用方法など、演習・実技を中心に下記のような内容ですすめました。

- ①Windowsの基本的な操作を習得しよう。
- ②デジタルカメラで撮影した自分自身の画像をプリンクラ風オリジナルカレンダーにしよう。
- ③インターネット・電子メール体験。
- ④エクセルで表計算。
- ⑤PowerPoint 2000を使っの作品作り。
- ⑥インターネットを使った教材作り。
- ⑦教材ソフト（STUDY）を使ってみよう。
- ⑧その他

楽しく、明るく、ちょっぴり自信がついた5日間でした。

受講者の感想

- ・私にとって、今年の夏の一番の収穫です。自分のこれまでの概念をひっくり返すほどの5日間でした。おかげさではなく……。今まで、やろうと思っけていても後回しにしていたパソコンが近くなってきたように感じます。とっても良かったです！感謝。
- ・基礎から分かりやすく丁寧に指導してくれたので、とっても良かったです。早速、授業改善としてパソコンを活用したいと思います。

みんなと一緒にたのしいな～！！

教育経営研修課 教育相談研究室

1 沖縄県内の適応指導教室の状況と取り組み

適応指導教室は、地域社会において不登校児童生徒への指導・援助を行う中核的な役割を担っています。現在、沖縄県内には本島内に9教室、平良市1教室、石垣市1教室の適応指導教室が設置され、小・中学校の不登校児童生徒が通級しています。平成12年9月現在で県内の適応指導教室に通級している児童生徒の総数は100名ほどになります。県内の適応指導教室の課題を解決するために協議会や研修会等を実施し、相談や指導方法、組織、運営等の充実を図っています。

2 沖縄県適応指導教室「てるしの」について

沖縄県適応指導教室「てるしの」は、カウンセリング、集団への適応指導、教科指導などを通して児童生徒の学校生活への復帰を支援しています。当適応指導教室「てるしの」は、小・中学生の他に県内で唯一高校生を受け入れています。

3 活動の様子

児童生徒が主体的に工夫しながら活動を広げるとともに、社会性を培って行けるよう体験重視の活動内容にしています。2～3の活動の様子を紹介します

◎ ふれあい活動

自由におしゃべりをしたり、生活する上で生じる問題をみんなで話し合ったり、活動計画を立てたりします。

写真5

◎ 栽培活動

理科研修課の先生方の応援のもと「てるしの」農園をつくり、野菜や花の栽培に取り組んでいます。

写真6

てるしのGarden

「かっこいい
看板もつくりました」

〔サツマイモの収穫〕

写真7

「たくさん
収穫できるかな!?」
「焼き芋したいね」

「ずいぶん
少ないな!!」

写真8

◎ 製作活動

技術研究室で看板づくりや本棚づくりに挑戦しました。

写真9

◎ 他にも様々な体験活動を取り入れています。さらに、集団への緊張や不安を軽減し生活体験の拡大を図るため県内の適応指導教室通級児童生徒の交流会を実施しています。

研究室だより

へき地・小規模・複式教育の課題解決のために

教育経営研修課 へき地教育研究室

総合的な学習の時間（3～6学年）

「ふるさと学習」

～ 21 世紀の友だちに 久高島のよさを伝えよう～

知念村立久高小学校



写真
11

海のように昔と今とは
どのようにちがうかな？

＊ 異年齢で取り組めるモデルを作成しています

第1・2学年 国語科複式指導

「スイミー」(同単元指導)

与那城町立宮城小学校



写真
12

スイミーがどんな魚かわかるころを
ワークシートにまとめましょう。

＊ 1・2年の国語科ワークシートを作成中です

◇ 実施している研修講座

- ① 小学校複式学級担任研修講座
- ② 小・中へき地教育研修講座
- ③ 小学校複式学級設置校校長等研修講座
- ④ 宮古・八重山地区における小学校複式学級担任研修講座

1 沖縄県のへき地指定校等の状況

平成12年5月1日現在，県内の公立小学校は275校5分校，中学校は164校で，合計439校5分校となっています。その中でへき地の指定を受けている学校は，小学校103校，中学校76校，合計177校で，小・中学校の約40%がへき地の学校です。

小規模校の数は，小学校が年々増加の傾向で，小学校数の46.8%に当たる131校が小規模校（11学級以下）となっています。

複式学級を有する学校は，国頭・八重山教育事務所管内に多く，特に八重山の小学校は，70%近くが複式学級のある学校となっています。

2 へき地教育研究室的取り組み

へき地教育の充実を図るため，本研究室では，長期・短期研修，調査研究の充実や複式学習指導資料の発行，各学校との情報ネットワーク化を一層推進し，へき地教育の情報センターとしての機能の強化に努めています。

本研究室の平成12年度の長期研修員は，1年研修員が3名，半年（後期）研修員が2名です。

各自，研究テーマを設定し研究仮説に基づいて研究を進めています。

◇ 検証授業の様子（1年研修員）

5学年社会科 伝統に生きる工業

「喜如嘉の芭蕉布づくり」

大宜味村立大宜味小学校



写真
10

「ウービキ」して，
芭蕉糸づくりの体験

＊ インターネットを活用した授業を構築しています

LD(学習障害)と特殊教育

特殊教育課 [知的・情緒・学習障害教育研究室]

平成12年10月15日(日)、沖縄県LD児者・親の会主催で、大阪教育大学の竹田契一教授等を迎え、LD(学習障害)児教育講演会「ぼくたちだって輝いていたい」が行われた。会場の吉の浦会館は、300人余の参加者で満員であった。

これは、県内におけるLD及びその周辺のADHD(注意欠陥性多動障害)等に対する関心の高さを表している。

LDと呼ばれる子供たちは、普通学校の中の通常の教室にいる。

LDとは、「基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

LDは、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。」と定義されている。

LDやADHDの子どもたちは、学習の困難や行動の不適応を本人の能力や努力不足、親のしつけの問題とみられてきた。特殊教育と普通教育の狭間において、これまで適切な対応がなされなかった。

LDの概念は、1960年代にアメリカで使われた。1975年頃、LDに関する訳本が日本で数冊刊行されたが、あまり関心が示されなかった。

1990年「学習障害の教育を考えるシンポジウム」が東京で開催され大きな話題になった。アメリカの学校でLDのサービスを受けていた帰国子女が日本でサービスを受けられないことを訴え、衆院予算特別委員会に取り上げられたのが我国のLD問題の発端になった。1992年、文部省は「LD及びこれに類した学習上の困難を有する児童生徒の指導法に関する調査研究協力者会議」を発足させ、95年に中間報告、99年に最終報告を出し、日本におけるLDの定義(前出)を明記した。

本県では、1995年にLD研究会、親の会が発足し、98年に琉球大学が「特殊教育実践センター」を創設しLDの相談等を行なっている。

当教育センターにおいては、1993年、特殊教育課で、島尻養護学校の大城政之教諭が「学習障害児の教育の在り方」のテーマで、LDの概念の整理と指導方法の研究に取り組んでいる。その後の県内におけるLDやADHDへの関心の高まり、対応の必要性から、1999年に特殊教育課で知的・情緒の研究室に新たに学習障害への対応が加わり今日に至っている。

県教育委員会は、本年度、「学習障害児等調査研究運営会議」を発足させた。

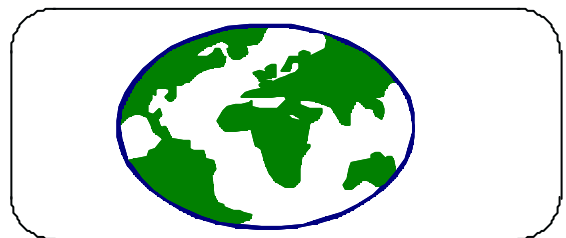
ところで、普通学校の中の通常学級の教育課題であるLDが特殊教育の中で取り組まれているのか。これは、たまたま日本で最初に紹介し、対応したのが特殊教育の関係者であったということにほかならない。

しかし、LDが特殊教育で取り組まれたことで、次のような点で「特殊教育」と「普通教育」をつなぐ大きな意味を持つことになる、山口(1999)は述べている。

①特殊教育が「障害児教育」から「特別なニーズ教育」への転換。

②「場における特殊教育」から「援助・サービスとしての特殊教育」への転換。

今後の課題として、LDやADHDは、通常教育における教育課題であり、不登校や問題行動との関連も予想される。そのために、LDへの指導システムの構築とLD等の指導ができる力のある教員の養成が必要である。今の時点での具体策はLDやADHDの子どもの状態の理解と対応への啓蒙である。



研 修 を 終 え て

写真 13

4 5

写真
No14



6

平成12年度 前期 長期研修員「研修テーマ」一覧

(研修期間 4月1日～9月30日)

課	氏 名	勤 務 校	研 究 室	研 究 テ ー マ
教育経営研修課	崎濱多美子	美 東 小	道 徳	豊かな人間性を育む総合単元的な道徳学習の工夫
	儀間 栄子	西 原 小	経 営	集団における所属感・連帯感を育む学年経営の工夫
	渡辺 英二	小 録 小	教育相談	よりよい人間関係をつくる学級経営を目指して
	金城 実幸	大 宮 中	道 徳	高め合う道徳の時間の工夫
	瀬長 盛光	大 里 中	経 営	生徒一人一人が自己を高める学級経営の工夫
	金武 哲雄	与 勝 中	教育相談	生徒の自己変容にせまる教育相談のあり方
	知名 朝次	陽 明 高	特別活動	生徒の所属意識を高めるホームルーム活動の工夫
	伊礼由美子	知 念 高	教育相談	生徒のより良い人間関係を築くために
教科 研 修 課	仲地 千佳	松 川 小	国 語	伝える力をはぐくむ作文指導の工夫
	宮城 悦子	具志頭小	国 語	的確に読む力を育てる学習指導の工夫
	金城 淳子	伊 波 小	社 会	地域素材を生かした社会科学学習指導の工夫
	嘉手苅弘美	美 原 小	算数数学	問いをもち、考える力を育む算数指導の工夫
	玉城 有	嘉 数 小	算数数学	「数学的な高まり」のある学習指導の工夫
	石川 勇作	中 城 小	生 活	主体的に学ぶ生活科合同学習の工夫
	嘉陽 尚子	坂 田 小	音 楽	生き生きと歌う児童の育成をめざして
	馬上加代子	豊見城小	図工美術	造形的な創造活動を高める授業の工夫
	山本 浩	坂 田 小	保健体育	一人一人がめあてを持ち、水泳に親しむ学習指導と評価の工夫
	古波蔵尚子	泊 小	総合的な学習	「総合的な学習の時間」における地域環境の指導の工夫
	寺村有美恵	普天間中	国 語	自ら学ぶ意欲を育てる国語科学習指導の工夫
	新里 勲	名 護 中	社 会	自ら学ぶ喜びを味わう社会科授業の工夫
	大城 清高	宮 城 中	算数数学	数学の楽しさを味わう授業の工夫
	津波 八郎	真和志中	英 語	実践的コミュニケーション能力を高める学習指導
	砂川裕佐子	宜野湾高	国 語	ものの見方・感じ方・考え方を豊かにする指導の工夫
	香村 桃代	糸 満 高	音 楽	創造的な学習活動の充実を図る指導の工夫
	當山 保	宜野湾高	英 語	英語学習における読解指導の工夫
	新城 俊昭	嘉手納高	総合的な学習	地域史をとりいれた「総合的な学習の時間」の指導の工夫
理科 研 修 課	金城 順子	宮 城 幼	幼児教育	友達とかかわる力をはぐくむための援助の工夫
	仲泊 貴美	宇栄原小	初等理科	草花を観察する力を育てる指導の工夫
	安田 智	山 田 中	技 術	問題解決能力を育てる指導の工夫
	加治工陽子	美里工業	家 庭	テーブルコーディネイトに興味・関心を高める指導の工夫
	山城 昭一	辺土名高	生 物	総合的な環境調査法の学習の工夫
	比嘉 裕子	浦 添 高	地 学	地磁気素材の教材化
情報処理課	石嶺 芳夫	向 陽 高	物 理	波動の基礎概念の形成を図る工夫
	宮城 紀士	高 原 小	教育工学	教育機器を活用した学習指導の改善
	仲宗根政人	具志川中	教育工学	教育機器を活用した学習指導の改善
特殊教育課	島元 要	那覇西高	教育工学	教育機器を活用した学習指導の改善
	鈴木 博子	与 勝 中	学習障害	学習上特別な配慮が必要な子供たちへの関わり方
	浦崎加代子	沖縄ろう	聴覚障害	コミュニケーション能力を高めるための指導の工夫
離島長期研修	稲福 京子	鏡が近義護	肢体不自由	主体的な学習活動を展開するための支援のあり方
	大浜 伸代	大 浜 小	生 活	地域に親しみ主体的に活動する授業づくりの工夫
	野底 義光	石垣第二中	算数数学	生徒が意欲的に取り組む数科学習の工夫
	宮川 時子	西 辺 中	特別活動	学びを実感できる生徒会活動の創造
	宮川 悟	西 城 小	初等理科	主体的に取り組む環境学習の工夫